

「水」は、わたしたちの生活になくてはならない大切な資源です。久留米市企業局では、24時間365日、みなさんのご家庭に水道水をお届けし、使った水をきれいにして筑後川に戻しています。今回の水だよりでは、その流れを紹介します。

水道水ができるまで

久留米市内で使われる水道水の多くは、山本町にある放光寺浄水場で作られています。水道水を作るために必要な時間は約9時間で、1日に作ることができる水道水の量は103,000m³※です。
※103,000m³は、25mプール約230杯分

1 筑後川の水を浄水場に送る

筑後川から取水した水ににおいの成分などを取り除くため、活性炭を注入します。その後、ポンプで放光寺浄水場に送ります。

だいらるしゅすいじょう
太郎原取水場



2 汚れを固めて沈める

取水場から送られてきた水に、目に見えない微生物や細菌を取り除くための塩素※1と汚れを固める凝集剤※2を加えます。凝集剤によって固まった汚れは沈み、上澄みを次の処理に送ります。 ※1次亜塩素酸ナトリウム ※2ポリ塩化アルミニウム

ちやくすいせい
着水井



ちんでんち
沈殿池



3 消毒する

消毒のために、塩素を加えます。(2回目)

4 汚れを取り除く

目に見えない小さな汚れを取り除くために、水を砂の層に通します。

かち
ろ過池



5 消毒する

安全な水を届けるために、最後に塩素を加えます。(3回目)
この処理が終わると水道水になります。

6 ためる・送る

完成した水道水は配水池にためます。水道水は、放光寺浄水場の高さを利用して自然の流れで送っています。

関 浄水管理センター
TEL:43-5826
FAX:43-7910



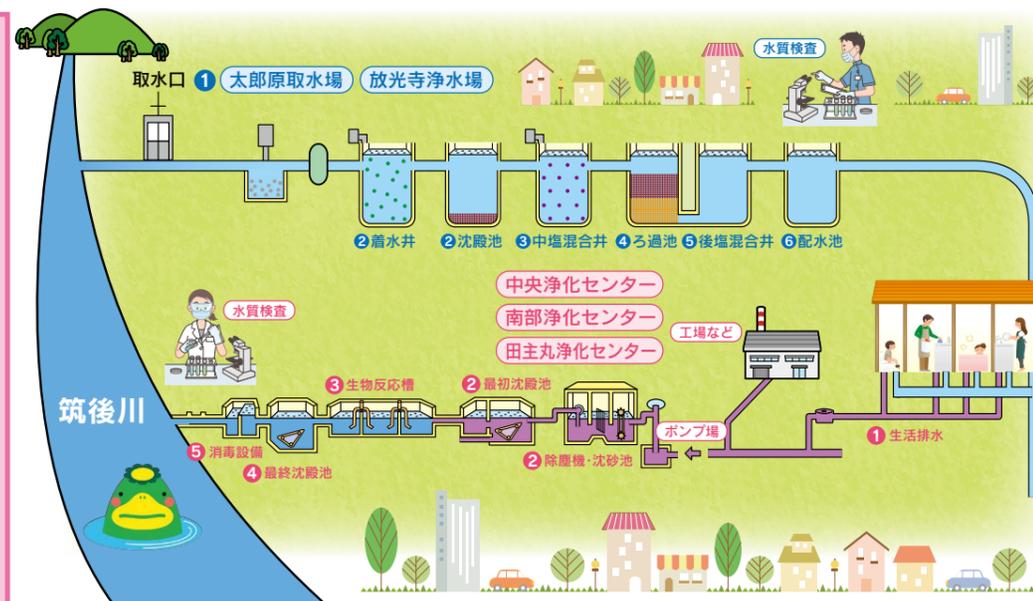
YouTube

トイレにトイレットペーパー以外のものを流さないでください

トイレにトイレットペーパー以外のものを流すと、下水道管やマンホールポンプ(下水の流れを助ける重要な設備)が詰まり、道路に下水があふれだす恐れがあります。
トイレにはトイレットペーパー以外のものを流さないでください。

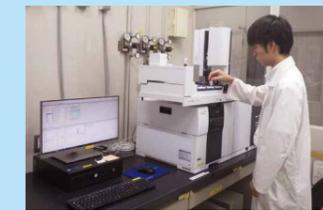


写真左:マンホールポンプに詰まったタオル 写真右:布切れ



久留米市の水道水は安全安心

久留米市企業局は、水道水質検査の優良な試験所として認定される『水道GLP※』を平成19年に取得しました。以後、現在に至るまで、4年に1度の厳格な更新審査に4回連続で合格しています。
水道GLPの認定を受けた水質検査によって、久留米市の水道水の安全が保証されています。
※水道GLP(水道水質検査優良試験所規範)…公益社団法人 日本水道協会が水質検査の信頼性を審査・認定するもの。



消毒副生成物の検査



残留塩素濃度の確認



ホームページ

使った水がきれいになるまで

久留米市の下水処理場では、微生物が下水中の汚れを分解し、きれいになった水を筑後川に戻しています。使った水をきれいにするために必要な時間は約18~20時間で、1日に処理できる下水の量は118,000m³※です。
※118,000m³は、25mプール約260杯分

1 下水を集める

使った水は下水道管を通過して、下水処理場に運ばれます。

2 ごみを取り除く

小ささまざまなごみを取り除きます。

じょじんぎ
除塵機
(大きなごみ)



ちんさち
沈砂池
(砂などの少し重たいごみ)



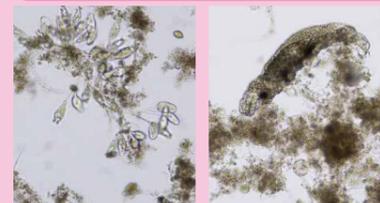
さいしょちんでんち
最初沈殿池
(小さなごみ)



せいぶつはんのうそう
生物反応槽



生物反応槽内の微生物



4 汚泥を沈める

生物反応槽でできた活性汚泥をゆっくり流し沈めると、上澄みはきれいな水になります。

さいしゅうちんでんち
最終沈殿池



5 消毒して筑後川に戻す

消毒のために塩素を加え、きれいになった水を筑後川に戻します。

処理前



処理後



YouTube

関 下水道施設課
TEL:39-1155 FAX:39-1155